

外国語科

言語活動の充実をめざした授業づくりの研究

—聞き手を意識したスピーチ活動の授業実践を通して—

松尾 砂織

1 はじめに

附属三原中学校の英語科部会では、4技能の能力の中でも、特に書くことに着目し、書く力を養う英語科の教材と学習指導法を開発してきた。これまで生徒実態や研究課題を踏まえ、生徒の発達段階に応じながら、既習事項を用いた書く活動を繰り返し学習することにより、学習指導要領にある「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと」といった言語活動の充実および定着を図ることをめざしてきた。

新学習指導要領及び教育要領実施により、小学校に外国語活動が導入され、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることになった。これにより、中学校では単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を身に付けさせるだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用させることができる能力の基礎を養うことの必要性がより一層求められることになる。

そこで本研究では、生徒の実態を明らかにした上で、文法事項を活用できる場の設定を工夫し、学んだ知識を活用して行うコミュニケーション活動の在り方を考えた教材の開発を行い、その効果を生徒の作品、振り返りの記述等から検証することにした。

2 研究の方法

(1) アンケート調査の実施

平成24年5月に広島大学附属三原中学校1年生

の生徒81名に英語学習に関する意識調査を実施した。調査対象の中学校1年生は、中学校の英語学習の中で、外国語活動で実施してきている「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動に加えて、「読むこと」「書くこと」の言語活動および、4技能の総合的・統合的な学習を受けることになる。本調査の内容は、質問項目6つに対して4つの尺度で回答するものと、回答の理由をたずねる記述を含む意識調査である。

(2) アンケート調査結果と生徒実態

表1にアンケート調査の結果を示している。

表1 意識調査の結果（数値はパーセント）

質問項目	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
①英語の勉強が好き	31.7	34.1	17	17
②英語の授業を楽しみにしている	19.5	48.7	12.9	19.5
③英語を話すことが好き	41.4	29.2	17	12.1
④英語を話したいと思う	48.7	26.8	7.3	19.5
⑤英語を書くことが好き	34.1	14.6	34.1	17
⑥英語を書きたいと思う	68.2	19.5	2.4	9.7

表1から「英語を話すことが好き」「話したい」と回答した生徒は7割を超えており、好きな活動の種類を記述する欄には「チャンツ」「歌」「ゲーム」など外国語活動で扱った内容があった。英語学習に取り組む生徒たちの様子を見ると、特に中学校から始まったALTとのTeam Teaching(以下、T.Tと表記)の授業への関心が高い。この授業では「聞く」「話す」を中心とした言語活動を実施するようにしており、意欲的に取り組もうとする生徒が多い。一方、書く活動に対しては、5割に達しておらず、苦手意識を持っている生徒が多いことが分かった。理由の記述には、単語を覚えることが難しいと回答している生徒が多かった。これらのことから、話すことに慣れ親しみを持っているが、単語や語句を覚えてそれらを活用するまでには至っていない実態が分かった。

3 実施した単元について

(1) 単元名

「My Project 2 人を紹介しよう」

(2) 実施時期

平成24年11月

(3) 実施学年と数

中学校1年生41名(男子21名, 女子20名)

(4) 単元観について

本単元は、既習事項を用いて紹介したい人を伝え合う活動ができる総合的な学習単元である。これまでに生徒はbe動詞、一般動詞の三人称単数現在(likes, plays, has, talks, reads, wants, does)、人称代名詞、疑問詞、助動詞canなどを学習してきた。これらの言語材料を用いて、紹介したい人について描写したり、自分の考えや思いを述べたりすることができる。さらに、書いた紹介文をスピーチする活動を行うことで、聞き手を意識した話し方を考えたり、話し手の考えを聞き取ったりすることができる教材であると考えられる。

(5) 集団観と生徒観について

調査結果から中学校1年生は学年として「話す

こと」に意欲は高いものの「書くこと」には苦手意識を持った集団であることが分かっている。実施した学級の生徒は、授業では挙手をするなどして積極的な授業参加の様子がある一方で、授業に集中しきれず自分にとって興味がある内容に限って取り組む生徒がいるなど、学習集団としては二極化している。しかし、ペア活動や班活動などの小集団の活動を組み込むと、他者と協力して学習課題に取り組もうとする生徒が増えるので、小集団を学習形態に積極的に取り入れながら、相互で学びあえる機会を増やしていくことにした。

(6) 指導にあたって

上記の生徒実態および課題等を踏まえ、本単元では個人で考えをまとめる場面と、小集団で交流する場面とに分けて指導した。以下、①～⑤に具体的な指導方法を示す。

- ①イメージマップを用いて、紹介したい人のイメージを膨らませ、できるだけ平易な日本語で表現させることで、英文にする際の苦手意識を減らすようにする。
- ②紹介文を書く場面では、単語を覚えることが難しい生徒が多いので、既習事項の名詞、動詞、形容詞などの単語や紹介文の例を提示し、それらを積極的に自分のスピーチ文へ取り入れるようにする。
- ③机間指導で書いた文を見て回り、エラーがあった場合は正しく書くように促す。
- ④スピーチに備えて読む練習をする場面では、聞き手を意識した話し方の視点を提示し、小集団で読みあう場面を設定する。
- ⑤6年生で扱う人の紹介では、リズム、アクセントに留意して話す活動を中心に行うので、7年生では、既習事項を用いながら話す内容を考え、話すときには聞き手を意識したスピーチができるようにする。

(7) 単元の目標

- ア 既習事項を用いて、意欲的にコミュニケーションがとれるようにする。(関心・意欲・態度)
- イ①適切な音量や明瞭さで話せるようにする。

- イ②内容的にまとまりのある文を書けるようにする。(外国語表現の能力)
- ウ 話されている内容から話しての意向を理解できるようにする。(外国語理解の能力)
- エ 人物紹介に関する表現を理解させるようにする。(言語や文化についての知識・理解)

(8) 単元計画 (全5時間)

- 第1次 紹介文の書き方について知る
イメージマップの練習をする 1時間
- 第2次 マッピングをして、スピーチ内容を整理する 1時間
- 第3次 スピーチの原稿を書き、相手に伝わるように読む練習をする 1時間
- 第4次 スピーチの発表をし、相互評価する 2時間

4 授業の実際

〈第1次〉紹介文の書き方について知り、イメージマップでアイデアを膨らませる

導入として、教科書にある紹介文を2つ提示し学習目標と取り組み内容を説明した。書くことに苦手意識を持っている生徒実態があることを考慮し、すぐに紹介したい人についての英文を書かせるのではなく、イメージマップを使って書く内容を膨らませた。はじめは個人で思考させてから、クラス全体で交流をした。

My Project 2 人を紹介しよう

【紹介文の構成】
教科書P88のAとBは、自分の好きなタレントを第三者に紹介した文です。文の構成は、以下の順で書かれています。

- 導入 (あいさつなどの呼びかけ)
- ↓
- 本文 (伝えたい内容)
- ↓
- 結び (聞いてくれた人に対するねぎらいやお礼のことば)

【問い1】以下の紹介文は「本文の構成」をもとに書かれました。○にあてはまる言葉を考えて、日本語で書きましょう。

Hi, everyone.
Do you know this man?
He is Barack Obama.
He is from the U.S.
He is a president of America.
I often watch him on TV.
He is very famous in Japan.
I like him very much.
I like his word.
Yes, we can.
Thank you for listening.



【本文の構成】P88を参考にして、中央の言葉に関連する語を結び、イメージマップを作ろう。



図1 個人で書いたイメージマップ

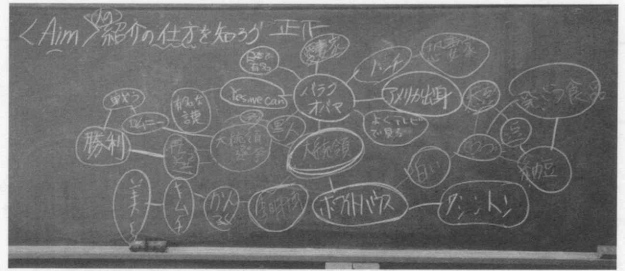


図2 クラスで交流したイメージマップ

紹介文を書くには、イメージマップを用いるだけでは難しい。そこで、盛り込んでほしい3つの内容を提示し、できるだけ相手と自分のつながりが具体的に分かるように書くように説明した。その内容は3つあり、①その人に関わる基本的な情報(職業・出身)②その人の特徴(人柄・性格・趣味)③その人に対する気持ちやなぜそのように思っているのかという理由を提示した。英文を書く際には、辞書や教科書を積極的に用いて、既習事項を活用するようにした。

〈第2次〉マッピングをして、スピーチ内容を整理する

第1次で学習した内容を振り返って定着させるために、書いたイメージマップの一部をクラスに提示した。紹介文に入れる3つの内容を全て含んだ図3と、含まれていない図4を見せながら、紹介文に入れる内容を再度確認した。第2次の学習目標は、イメージマップをもとに英語で紹介文を書くことなので、足りない内容を補わせるとともに、紹介文に使えるような表現をチャンクカードにまとめて、ペアで音読練習を取り入れた。

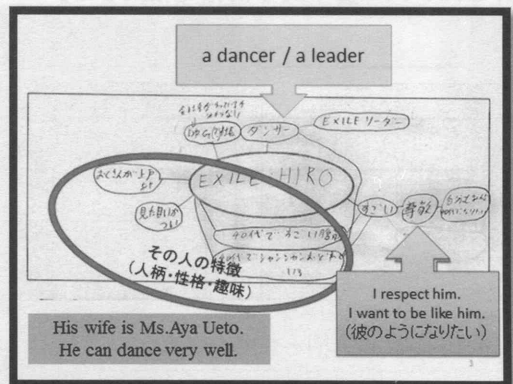


図3 生徒のイメージマップ

表2 使用したチャンクカードの一部

1	Hi, everyone.	やあ、みなさん。
2	Look at this picture.	この写真を見て下さい。
3	He is my father Shinji.	彼は私の父の慎司です。
4	He is a doctor.	彼は医者です。
5	He helps a lot of people.	彼は多くの人々を助けています。
6	He is gentle and cool.	彼はやさしくてかっこいいです。
7	His hobby is reading books.	彼の趣味は読書です。
8	He likes comics too.	彼はマンガも好きです。
9	I really like him.	私は彼のことがとても好きです。
10	Because he often reads comics with me.	なぜならば、彼はよく私と一緒にマンガを読むからです。
11	And I respect him.	そして私は彼を尊敬しています。
12	Thank you for listening.	ご清聴ありがとうございました。

表3 紹介文の書き込みワークシート抜粋

【問い】その人を紹介するために必要な情報を書き出してみよう。

○紹介したい人の基本的な情報【職業など】

This is
He is
She is
He(She) is my
He(She) is a

○その人の特徴【人柄・性格・趣味など】

My brother (sister)

He(She)
His (Her) hobby is
○あなたの気持ち【その人のことをどう思っているか、どんな風に普段接しているかなど】
I like
I respect (尊敬する)
Because

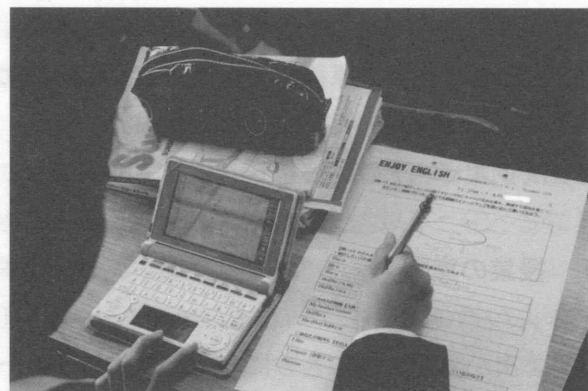


図4 辞書を元に英文を書く様子

紹介文を英語で書く際には、チャンクカードや教科書、辞書などよりどことどの資料を与え、取捨選択して英文を書くことができるようにした。第2次の終了時に集めたワークシートを見ると、図5でなぜその人を紹介することにしたのか、その人のことをどう思っているか理由を書いていなかった生徒は、授業後にはそこを修正していた。

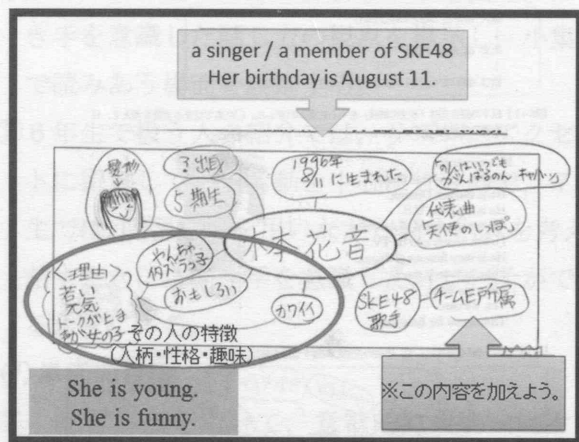


図5 扱う内容が1つ足りなかった生徒の作品

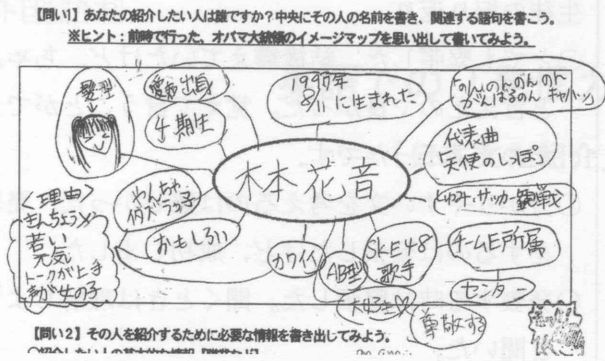


図6 図5を修正した生徒の作品

読む練習をする。練習をする前に、3つの読む視点を確認する。

【読む視点】はっきりと読む。大きな声で読む。相手を見て読むようにする。

- ⑤次時の学習について考え、見通しを持たせる。
- ・自己評価カードに授業の振り返りを書かせる。
 - ・紹介文を回収し、回収後に文法チェックをして返却する。また、返却された紹介文の暗唱を宿題とする。

〈第3次〉スピーチの原稿を書き、相手に伝わるように読む練習をする

第3次では、第4次のスピーチ活動に向けて、書く活動と読む活動を中心に行った。スピーチ発表会では、聞く相手のことを考えて発表しなければならない。第3次の読む練習では、3つの視点に気をつけて読む指導をした。具体的な学習の流れは表4に示している。

表4 第3次の学習の流れ

- ①英語で挨拶をしてから、本時の学習課題を確認する。
 - ・自己評価カードに学習目標を記入させ、本時の課題について考えさせる。
- ②チャンクカードを使って既習表現の定着をする。
 - ・パワーポイントの画面を見ながら、個人で音読の練習をさせる。
 - ・ペアで交互に練習し、学習状況を相互で確認する。
- ③例文や口頭練習で用いた表現を参考にして、紹介文を英語で書かせる。
 - ・第2次に個人でまとめたマッピングを見ながら英文を書くように指導する。
 - ・チャンクカードの例文を見ながら、スピーチの構成を確認し、内容的にまとまりのある英文を書かせる。
 - ・既習事項を活用したり、辞書を用いたりしながら英文を書かせる。
 - ・机間指導をして、適宜スペルチェックを行う。
- ④聞き手が理解しやすい読み方を意識して、班内で



図7 英文を書いている様子

〈第4次〉スピーチの発表をし、相互評価する
第4次ではスピーチ発表会を行い、聞いたスピーチに対する相互評価を行った。生徒は、自分が紹介する人の写真を実物提示装置に写し、紹介文を覚えて発表した。また、聞いている人には、発表した英語がどのように聞こえているかを知るために、ボイスレコーダーにスピーチを録音した。

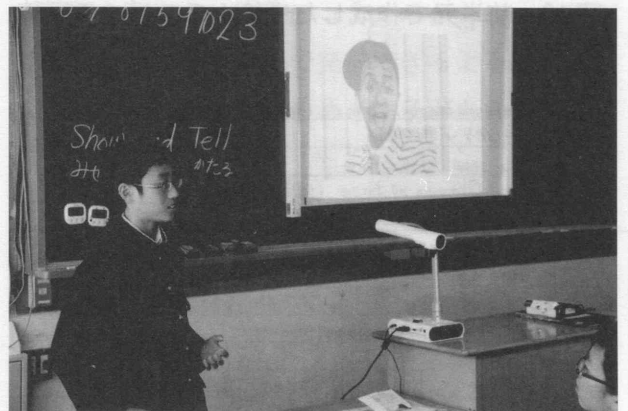


図8 スピーチ発表をする生徒の様子1

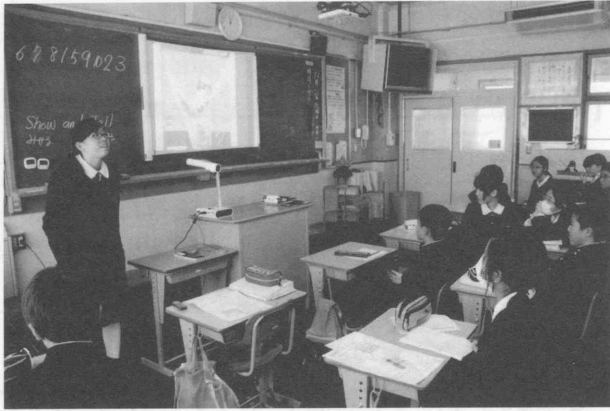


図9 スピーチ発表をする生徒の様子2

5 考察

図10は、前単元で行ったスピーチ活動の中で、最終的に生徒が提出した作品（スピーチ原稿）である。発表内容は、自分の好きな物・紹介したい物であった。図11は、本単元で生徒が提出した作品である。対象生徒Aの作品を比較すると、イメージマップを取り入れて指導をした図10の方が、文の数が増えただけでなく、理由を含む英文が加えられており、自分の思いを他者に伝える表現を多く含む英文を書くことができています。

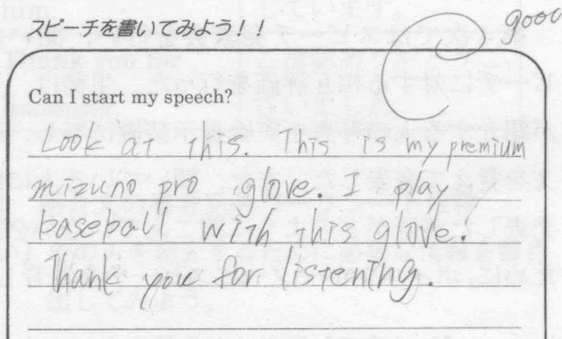


図10 前単元で作成した生徒Aのスピーチ原稿

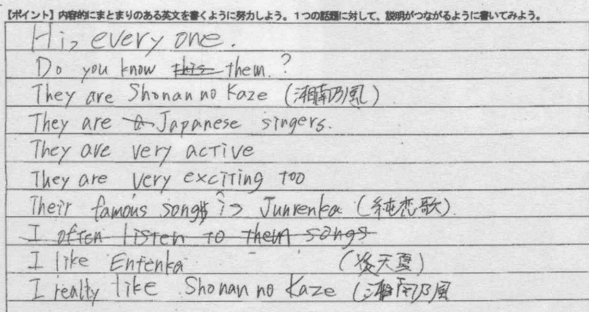


図11 本単元で作成した生徒Aのスピーチ原稿

生徒の振り返り

- とても緊張した。結構震えていたけど、ちゃんとできたので良かった。覚えて言うことができたのでよかったです。
- 分かりやすい文を考えるのは難しかった。発表をするのは緊張したけど、成功しました。
- 発表する時は緊張した。聞くときは理解しようと聞いた。
- マッピングで書く人について深く書けたのでよかったです。
- 色んな文を書けたのでよかったです。文の構成を考えて書けた。

今回は、イメージマップを取り入れてスピーチの内容を膨らませたり、既習事項をチャンクにして繰り返し個人やペアで練習したりすることが書くことに苦手だと感じている学習集団に対しての指導で効果があることが分かった。しかしながら、書くことだけにとどまらず、生徒がどの点でつまづきを感じているかを調査し、それに対する指導を行っていく必要があると感じている。

〈引用・参考文献〉

- 1) 松尾砂織・小廣川和恵・安松洋佳・デミール千代：「平成24年度幼小中一貫教育研究会外国語部会研究構想」, 2012.
- 2) 松尾砂織・村上直子・柳瀬陽介・樫葉みつ子：「書く力を養う英語科の教材および学習指導開発」, 広島大学 学部・附属学校共同研究機構 研究紀要, 第39号, pp.369-230, 2011.
- 3) 文部科学省：『中学校学習指導要領解説 外国語編』, 2008.
- 4) 松尾砂織「文法事項の習得とコミュニケーション能力の活用について」, 第4回広島大学附属学校園合同研究フォーラム発表概要, 2012.